元気！長生き！
太陽生命

News Release

2022年２月14日

各　位

太陽生命保険株式会社
代表取締役社長　副島　直樹

個人年金保険ブロックの出再について

Ｔ＆Ｄ保険グループの太陽生命保険株式会社（社長　副島直樹）は、保有する個人年金保険の既契約ブロックの一部を再保険に付する出再方針を決定いたしましたのでお知らせいたします。

1. 出再の目的

当社は2003年度以降、貯蓄性商品から保障性商品へと販売商品を変化させるビジネスモデルに転換いたしました。その後、内部留保を積み上げてきた結果、利益剰余金は過去最高水準となっております。

一方、会社全体では順ざや(※1)となっているものの、ビジネスモデル転換以前に販売した貯蓄性商品については、逆ざや(※1)状態が当面の間は継続する見通しとなっております。

このような現状をふまえ、高予定利率の個人年金保険契約を出再し、責任準備金の積立義務を再保険会社に移転することといたします。これにより、経済環境悪化時においてもお客様に年金等を安定的にお支払いする財源を確保いたします。

その結果、2022年度以後およそ20年間の長期にわたり、責任準備金の積立負担が軽減されることにより収益成長を図ってまいります。

なお、この再保険は財務的なリスクを移転するものであり、保険契約における当社とお客様との関係に変更が生じるものではなく、お客様にお約束した保険金額等に変更はありません。

(※1)契約者様にお約束した利率である予定利率により見込んでいる運用収益を、実際の運用収支が上回る状態を「順ざや」、下回る状態を「逆ざや」といいます。

2. 出再の内容

対象契約	個人年金保険（据置中、年金支払中契約）の既契約ブロックの一部
再保険取引方式	共同保険式再保険(※2)
引受再保険会社	複数の保険会社と協議中
取引規模(※3)	5,800億円程度（責任準備金ベース）
再保険料(※4)	7,100億円程度
契約締結時期	2022年３月末までに契約締結予定

(※2)再保険会社が、当社が締結した保険契約と同条件で責任を負う再保険の形態をいい、出再対象契約の経済的リスクは当社から再保険会社に移転します。
(※3)取引規模は、当社が見込む金額です。
(※4)再保険料は、現時点で当社が見込む概算値で、今後変動する可能性があります。

3. 今後の見通し

本件による当社の2022年３月期決算における「経常利益」への影響は△1,210億円程度、「当期純利益」への影響は△870億円程度を見込んでおります。その結果、当社の2022年３月期の通期業績見通しは下表のとおりとなる見通しであり、これらの影響は、本日、Ｔ＆Ｄホールディングスが公表の「太陽生命保険株式会社による既契約ブロックの出再および2022年３月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」に反映しています。

なお、この出再により2023年３月期決算における責任準備金の繰入額は250億円程度減少し、経常利益および基礎利益の増益に貢献することを見込んでおります。また、利益に与える影響の通算額は、長期的には概ねゼロとなる見通しです。

＜2022年３月期　業績予想の修正＞

	経常収益 (※6)	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (※5)	7,600億円程度	370億円程度	150億円程度
今回発表予想(B)	13,400億円程度	△840億円程度	△720億円程度
増減額(B-A)	5,800億円程度	△1,210億円程度	△870億円程度
（ご参考）前年実績	7,973億円	316億円	102億円

(※5)前回発表予想(A)は、2021 年 11 月 12 日にＴ＆Ｄホールディングスが公表した予想数値です。
(※6)再保険取引に伴い出再対象契約の責任準備金の戻入が発生するため、増加が見込まれます。

(注)2022年３月期決算における影響額は、2021年12月末金利を前提として算出したものであり、契約締結時の金利環境等により変動します。また、2023年３月期の責任準備金の繰入額への影響は、対象契約から将来生じる予定利息負担のうち再保険会社に移転される金額を反映しております。

また、利益に与える影響の通算額は、再保険会社に支払う再保険料の額から、再保険会社から将来受け取ることが想定される再保険金、および再保険料に相当する資産から生じたであろう将来の運用収益見通しの合計額を差し引いたものです。なお、実際の業績は、様々な要因により記載の予想とは異なる結果となる可能性があります。

以　上

太陽生命保険株式会社　広報部
東京都中央区日本橋２－７－１